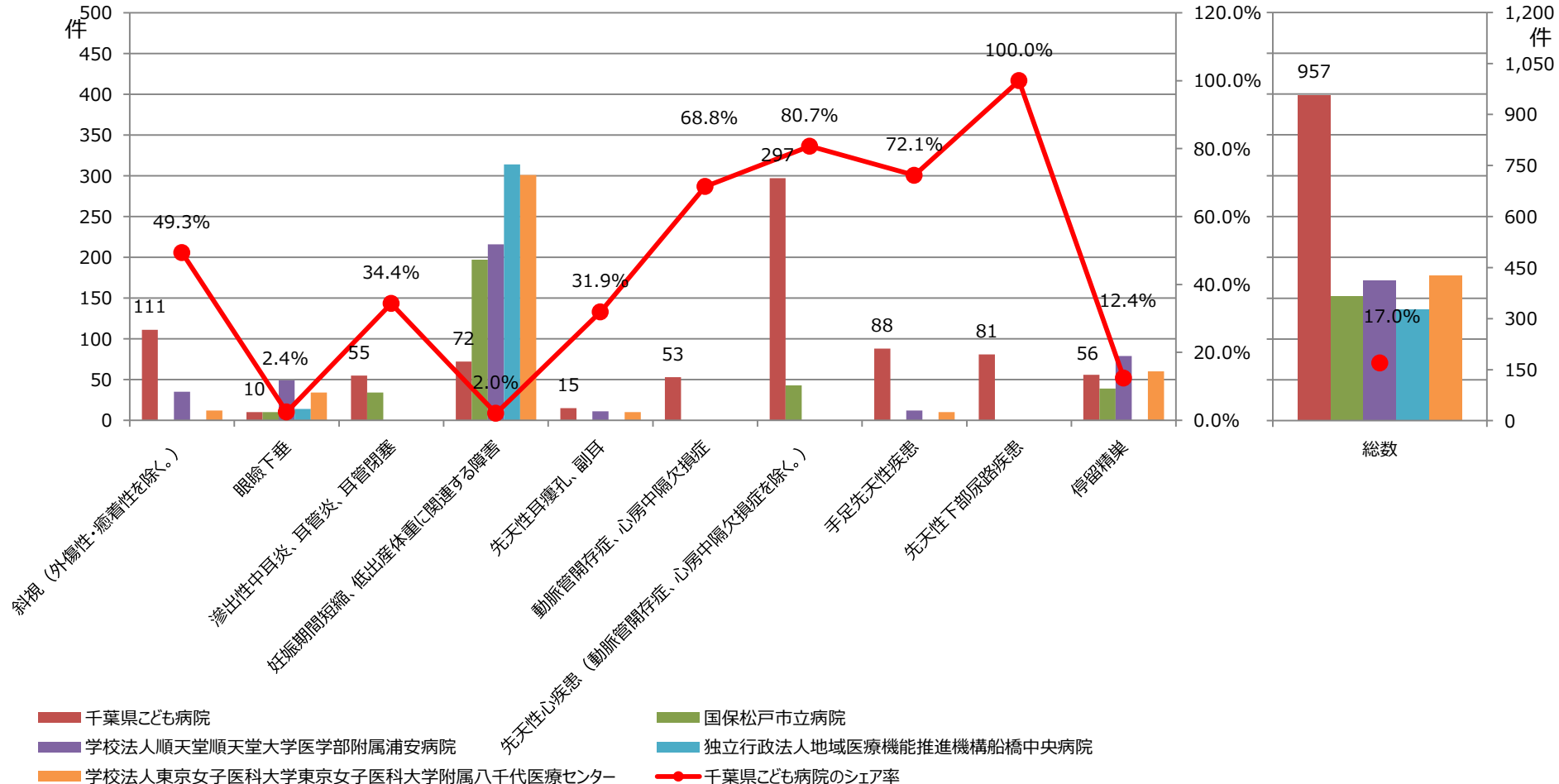


V.千葉県こども病院

1) こども病院の提供する医療の概要

- ✓ こども病院は、一般病院では対応困難な高度専門小児医療を担う、全県対応型小児医療拠点病院である。
- ✓ 小児系領域では県内トップのシェアを持ち、全県対応型の小児医療機関としての機能を果たしている。
- ✓ 特に、先天性下部尿路疾患、先天性心疾患、手足先天性疾患の分野において高いシェアを占めている。

県内の主な小児系領域診療病院の疾患別症例数(H26年度総数上位5施設)



出典：平成27年度第7回 診療報酬調査専門組織・DPC評価分科会


1. こども病院の担う役割

2) こども病院の小児関連疾患における県内シェア率

こども病院の小児関連疾患における県内シェア率(H26年度)

施設名	千葉県 こども病院	千葉大医学部 附属病院	千葉市立 海浜病院	総合病院国保旭 中央病院	国保直営 総合病院 君津中央病院	国保松戸 市立病院	学校法人順天堂 順天堂大学医学部 附属浦安病院	独立行政法人 地域医療機能 推進機構 船橋中央病院	学校法人東京 女子医科大学 東京女子医科大学 附属八千代 医療センター	医療法人鉄蕉会 亀田総合病院	その他病院	合計	
施設所在地	千葉市	千葉市	千葉市	旭市	木更津市	松戸市	浦安市	船橋市	八千代市	鴨川市	—	—	
DPC対象病床数	218床	790床	287床	749床	623床	570床	656床	410床	357床	865床	15,987床	21,512床	
斜視 (外傷性・癒着性を除く。)	件数	111	16	0	10	0	35	0	12	0	41	225	
	シェア率	49.3%	7.1%	0.0%	4.4%	0.0%	0.0%	15.6%	0.0%	5.3%	0.0%	18.2%	100.0%
眼瞼下垂	件数	10	25	0	29	0	10	14	34	29	212	412	
	シェア率	2.4%	6.1%	0.0%	7.0%	0.0%	2.4%	11.9%	3.4%	8.3%	7.0%	51.5%	100.0%
滲出性中耳炎、 耳管炎、耳管閉塞	件数	55	0	47	0	0	34	0	0	0	24	160	
	シェア率	34.4%	0.0%	29.4%	0.0%	0.0%	21.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	15.0%	100.0%
妊娠期間短縮、 低出産体重に関連する障害	件数	72	119	279	288	194	197	216	314	301	253	1,297	3,530
	シェア率	2.0%	3.4%	7.9%	8.2%	5.5%	5.6%	6.1%	8.9%	8.5%	7.2%	36.7%	100.0%
先天性耳瘻孔、副耳	件数	15	0	0	0	0	0	11	0	10	0	11	47
	シェア率	31.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	23.4%	0.0%	21.3%	0.0%	23.4%	100.0%
動脈管開存症、 心房中隔欠損症	件数	53	0	0	0	0	12	0	0	0	0	12	77
	シェア率	68.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	15.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	15.6%	100.0%
先天性心疾患（動脈管開存症、 心房中隔欠損症を除く。）	件数	297	11	0	0	0	43	0	0	0	0	17	368
	シェア率	80.7%	3.0%	0.0%	0.0%	0.0%	11.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.6%	100.0%
手足先天性疾患	件数	88	12	0	0	0	12	0	10	0	0	122	
	シェア率	72.1%	9.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	9.8%	0.0%	8.2%	0.0%	0.0%	100.0%
先天性下部尿路疾患	件数	81	0	0	0	0	0	0	0	0	0	81	
	シェア率	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
停留精巣	件数	56	23	0	0	48	39	79	0	60	0	145	450
	シェア率	12.4%	5.1%	0.0%	0.0%	10.7%	8.7%	17.6%	0.0%	13.3%	0.0%	32.2%	100.0%
その他の小児関連疾患	件数	119	13	0	0	0	30	11	0	0	0	173	
	シェア率	68.8%	7.5%	0.0%	0.0%	0.0%	17.3%	6.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
総数	件数	957	219	326	327	242	365	413	328	427	282	1,759	5,645
	シェア率	17.0%	3.9%	5.8%	5.8%	4.3%	6.5%	7.3%	5.8%	7.6%	5.0%	31.2%	100.0%

 県内で最もシェアが高い病院

 県内で2番目にシェアが高い病院

 県内で3番目にシェアが高い病院

1. こども病院の担う役割

3) 医療圏別入院患者数の状況

- ✓ こども病院の入院患者は、千葉医療圏居住者が5割弱を占める。
- ✓ その他、山武長生夷隅、東葛南部、印旛、市原といった隣接医療圏及び千葉県内全域から患者が来院している。

医療圏別実入院患者数(平成27年度)

医療圏	実入院患者数	構成比	積上げ構成比
千葉	2,701	49.9%	49.9%
山武長生夷隅	742	13.7%	63.6%
東葛南部	523	9.7%	73.2%
印旛	391	7.2%	80.4%
市原	379	7.0%	87.4%
君津	189	3.5%	90.9%
千葉県外	189	3.5%	94.4%
香取海匝	148	2.7%	97.2%
東葛北部	111	2.0%	99.2%
安房	43	0.8%	100.0%
総計	5,416	100.0%	-

2.こども病院の第3次中期経営計画の達成状況

- ✓ 平成25年度から27年度にかけて、医業収支・経常収支共に減少傾向にある。要因としては、増加傾向にある収益を上回る水準で給与費等の費用が増加傾向にあることが挙げられる。
- ✓ 医業収益全体では増加傾向にあるが、患者数の減少により入院収益は減少傾向にある。

区 分		平成25年度	平成26年度	平成27年度
		実績	実績	実績
収益	医業収益	6,677	6,956	6,999
	入院収益	4,747	4,663	4,595
	入院診療単価	81,553	83,665	84,782
	延入院患者数	58,213	55,740	54,194
	(参考)手術件数	1,961	1,941	1,932
	外来収益	1,887	2,253	2,358
	外来診療単価	23,409	26,942	27,589
	延外来患者数	80,600	83,625	85,459
	(参考)紹介件数	5,988	5,952	5,600
	医業外収益	2,449	2,758	2,771
特別利益	0	11	2	
収益計		9,125	9,725	9,772
費用	医業費用	8,115	9,116	9,430
	給与費	4,154	4,631	4,810
	材料費	2,146	2,480	2,556
	薬品費	1,635	1,911	1,990
	診材費	468	528	527
	経費	1,326	1,471	1,521
	医業外費用	253	164	185
	特別損失	244	26	4
費用計		8,612	9,306	9,618
医業収支		-1,438	-2,160	-2,431
経常収支		757	434	155

平成28年度	
当初目標	平成27年度実績に対する達成率
6,661	105.1%
4,943	92.9%
78,269	105.3%
63,159	85.8%
-	-
1,695	139.1%
21,248	129.8%
79,771	107.1%
-	-
2,432	113.9%
0	-
9,093	107.5%
8,422	89.3%
4,488	93.3%
2,152	84.2%
1,659	83.4%
450	85.4%
1,291	84.9%
140	76.0%
0	-
8,563	89.0%
-1,761	72.4%
531	29.2%

達成率95%未満

100%未満

100%以上

105%以上

※表中の各項目の合計値は、四捨五入の関係で一致しないことがある。

出典：中期経営計画実績および目標データ

単位：百万円

2.こども病院の第3次中期経営計画の達成状況

- ✓ 医師数の増加に伴い新入院患者数、新外来患者数ともに増加傾向にある。
- ✓ 一方で、給与費の増加を上回る医業収益が得られていない。

区 分		平成25年度	平成26年度	平成27年度
		実績	実績	実績
新入院患者数	(人)	4,059	4,086	4,364
新外来患者数	(人)	4,803	4,086	4,863
病床利用率	(%)	73.2	70.1	72.6
平均在院日数	(日)	14.3	13.6	12.4
医師数	(人)	87	88	96
医業収支比率	(%)	82.3	76.3	74.2
経常収支比率	(%)	109.1	104.7	101.6
給与費比率	(%)	62.2	66.6	68.7
材料費比率	(%)	32.1	35.6	36.5
経費比率	(%)	19.9	21.1	21.7
紹介率	(%)	83.9	92.5	95.8

平成28年度	
当初目標	平成27年度実績に対する達成率
4,600	94.9%
5,250	92.6%
81.6	88.9%
13.0	104.8%
-	-
79.1	93.8%
106.2	95.7%
67.4	98.0%
32.3	88.4%
19.4	89.2%
90.0	106.4%

■ 達成率95%未満 ■ 100%未満

■ 100%以上 ■ 105%以上

3. こども病院のベンチマーク分析

- ✓ 医業収支比率は75.9%で、ベンチマーク病院と比較して低い水準にある。
- ✓ 外来収益はベンチマーク病院を上回っているが、診療単価の高い入院収益は下回っている。診療単価が低い外来収益の医業収益に占める規模が大きいことから、給与費比率はベンチマーク病院より高い水準にある。
- ✓ 薬品費比率、医療材料費率が高い水準にある。

項目	単位	平成26年度 千葉県こども病院	平成26年度 ベンチマーク平均	ベンチマークとの差異
病床数	床	224	201	
医業収支比率	%	75.9%	81.1%	-5.2%
経常収支比率	%	102.1%	99.5%	2.6%
医業収益/100床	千円	3,104,418	2,996,490	107,928
入院収益/100床	千円	2,081,919	2,312,037	-230,118
病床利用率	%	68.2	78.1	-9.86
平均在院日数	日	13.6	12.1	1.54
入院診療単価	円	83,665	80,696	2,969
外来収益/100床	千円	1,005,771	659,480	346,292
1日平均患者数/100床	人	153	149	4
外来診療単価	円	26,941	19,073	7,868
医業費用/100床	千円	4,087,459	3,692,599	394,860
職員給与費比率(対医業収益)	%	70.4%	55.5%	14.9%
光熱水費比率(対医業収益)	%	2.7%	2.1%	0.6%
委託料比率(対医業収益)	%	10.7%	8.2%	2.4%
薬品費比率(対医業収益)	%	22.8%	10.0%	12.8%
医療材料費比率(対医業収益)	%	32.5%	18.6%	13.9%

※ベンチマーク病院の平均値は、医業収支比率が千葉県こども病院よりも高い茨城県立こども病院、あいち小児保健医療総合センター、兵庫県立こども病院を対象病院として算出した平成26年度平均値を用いた。

出典：平成26年度公営企業年鑑

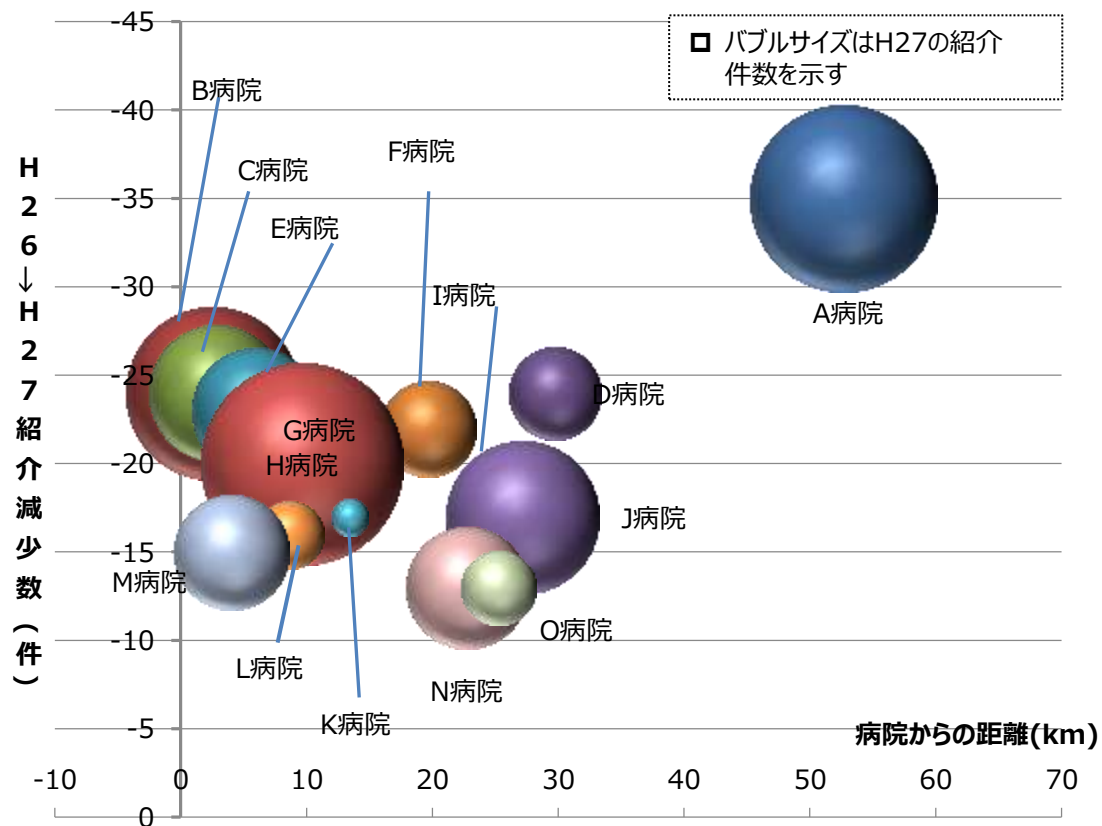
4. こども病院の経営分析の主要ポイント

1) 紹介件数の推移

- ✓ 紹介患者数は、H25-27で全体として減少傾向にある。医療機関別ではA病院、B病院、C病院、D病院で特に紹介件数が減少している。

医療機関別紹介患者数(減少数下位20位)

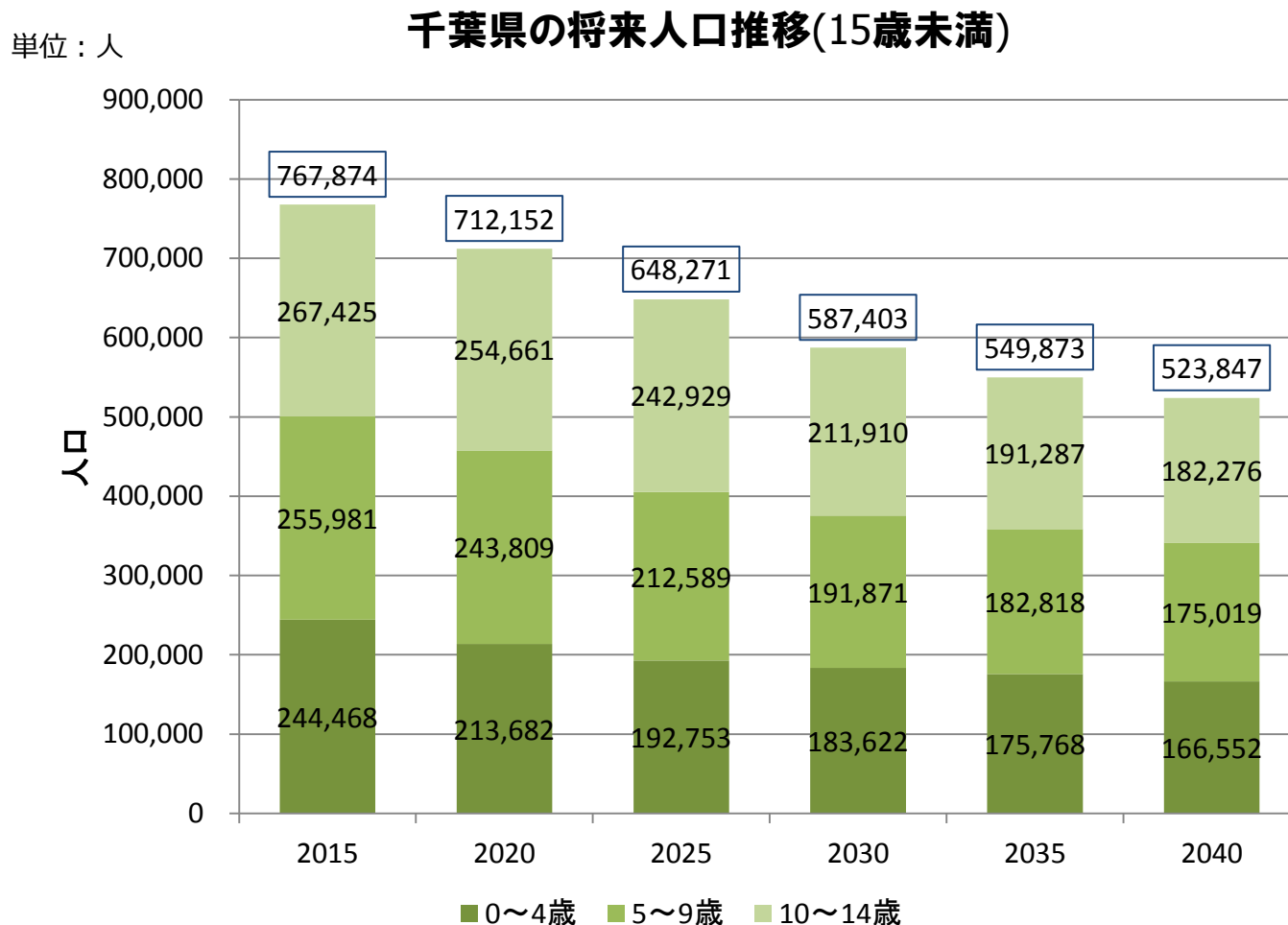
医療機関名	総計			
	H25	H26	H27	H26→ H27 増減数
A病院	192	162	127	-35
B病院	128	133	109	-24
C病院	69	91	67	-24
D病院	52	55	31	-24
E病院	64	81	58	-23
F病院	51	56	34	-22
G病院	47	52	30	-22
H病院	148	169	149	-20
I病院	8	22	2	-20
J病院	139	102	85	-17
K病院	12	22	5	-17
L病院	17	33	17	-16
M病院	39	63	48	-15
N病院	50	67	54	-13
O病院	13	33	20	-13
P病院	18	30	17	-13
Q病院	58	64	52	-12
R病院	42	37	25	-12
S病院	7	17	6	-11
T病院	13	11	0	-11
総計	5,988	5,952	5,600	-352



4. こども病院の経営分析の主要ポイント

2) 千葉県内の15歳未満の将来推計人口

- ✓ 千葉県では、15歳未満の人口は2015年以降一貫して減少する見込みである。
- ✓ 0～4歳、5～9歳、10～14歳の各年齢区分でも、2015年以降一貫して人口が減少する傾向にある。



出典：国立社会保障人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（都道府県・市区町村）」

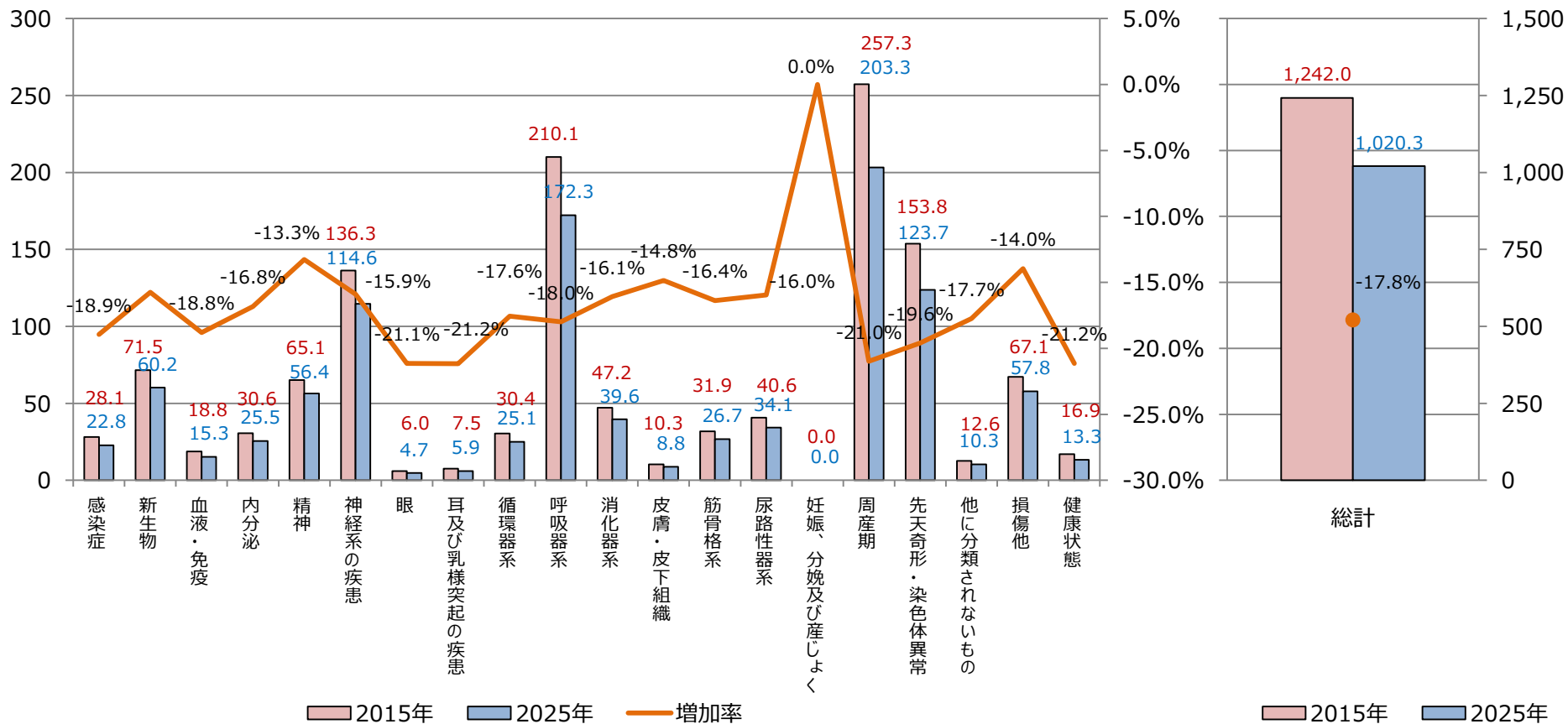
4. こども病院の経営分析の主要ポイント

3) 千葉県内の15歳未満の将来推計患者数

- ✓ 千葉県の2025年の15歳未満将来推計入院患者数は、現状から約17.8%減少し、全ての疾患が減少する見込みである。

千葉県の将来推計入院患者数及び増加率(15歳未満)

単位：人



4. こども病院の経営分析の主要ポイント

4) 診療科別入院延患者数の推移

✓ 下記の診療科の患者数が減少している。

▲ 10%以上の診療科（H25-H27比較）：感染症科、代謝科、新生児・未熟児科、腎臓科、アレルギー・膠原病科、循環器内科、神経内科、精神科、救急診療科、眼科、歯科

▲ 5%以上10%未満の診療科（H25-H27比較）：脳神経外科、形成外科、泌尿器科

入院延患者数推移

診療科	入院延患者数（人）				比較 対平均 (H27)	増減		
	H25	H26	H27	平均		H25-H26	H26-H27	H25-H27
感染症科	2,509	2,315	2,161	2,328	▲ 7.2%	▲ 7.7%	▲ 6.7%	▲ 13.9%
内分泌科	1,509	1,788	1,977	1,758	12.5%	18.5%	10.6%	31.0%
代謝科	1,429	873	1,014	1,105	▲ 8.3%	▲ 38.9%	16.2%	▲ 29.0%
血液腫瘍科	6,725	6,419	6,469	6,538	▲ 1.1%	▲ 4.6%	0.8%	▲ 3.8%
新生児・未熟児科	4,492	2,924	3,546	3,654	▲ 3.0%	▲ 34.9%	21.3%	▲ 21.1%
腎臓科	2,371	2,015	2,127	2,171	▲ 2.0%	▲ 15.0%	5.6%	▲ 10.3%
アレルギー・膠原病科	3,265	2,705	2,436	2,802	▲ 13.1%	▲ 17.2%	▲ 9.9%	▲ 25.4%
循環器内科	5,689	5,520	4,507	5,239	▲ 14.0%	▲ 3.0%	▲ 18.4%	▲ 20.8%
神経内科	3,669	3,705	3,035	3,470	▲ 12.5%	1.0%	▲ 18.1%	▲ 17.3%
精神科	369	304	288	320	▲ 10.1%	▲ 17.6%	▲ 5.3%	▲ 22.0%
救急診療科	3,526	3,447	3,173	3,382	▲ 6.2%	▲ 2.2%	▲ 7.9%	▲ 10.0%
小児外科	3,471	3,387	3,465	3,441	0.7%	▲ 2.4%	2.3%	▲ 0.2%
整形外科	6,065	6,879	7,041	6,662	5.7%	13.4%	2.4%	16.1%
脳神経外科	2,544	2,731	2,351	2,542	▲ 7.5%	7.4%	▲ 13.9%	▲ 7.6%
眼科	1,118	894	963	992	▲ 2.9%	▲ 20.0%	7.7%	▲ 13.9%
耳鼻咽喉科	1,562	1,663	1,613	1,613	0.0%	6.5%	▲ 3.0%	3.3%
形成外科	2,757	2,243	2,573	2,524	1.9%	▲ 18.6%	14.7%	▲ 6.7%
泌尿器科	1,835	1,979	1,712	1,842	▲ 7.1%	7.8%	▲ 13.5%	▲ 6.7%
心臓血管外科	3,021	3,668	3,324	3,338	▲ 0.4%	21.4%	▲ 9.4%	10.0%
産科	246	245	384	292	31.7%	▲ 0.4%	56.7%	56.1%
歯科	41	36	35	37	▲ 6.3%	▲ 12.2%	▲ 2.8%	▲ 14.6%
合計	58,213	55,740	54,194	56,049	▲ 3.3%	▲ 4.2%	▲ 2.8%	▲ 6.9%

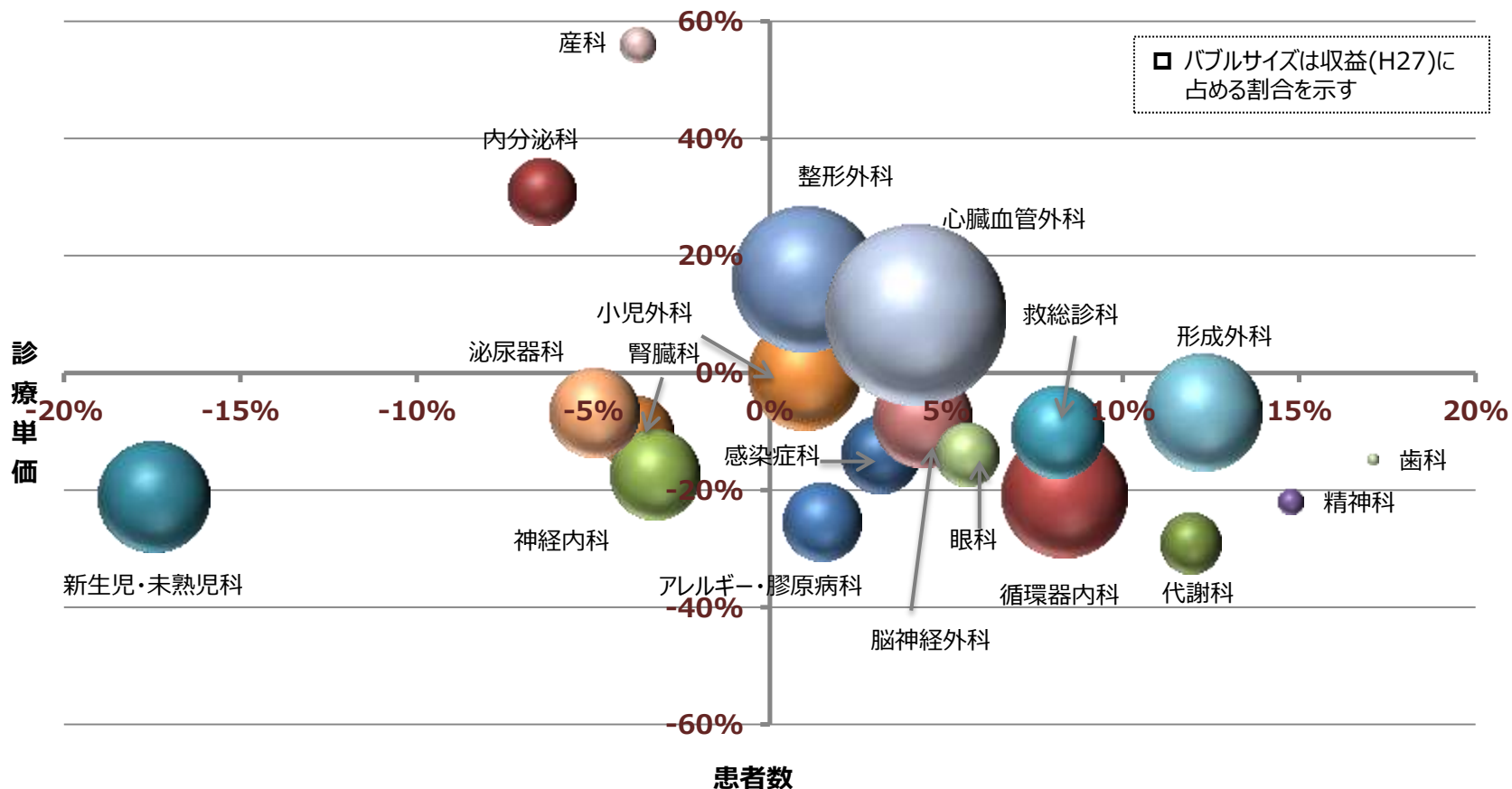
出典：千葉県こども病院年報データ

4. こども病院の経営分析の主要ポイント

5) 入院延患者数と診療単価の増減

- ✓ 医師数が減少していない診療科でも患者数の減少傾向が見られる。特に、収益規模の大きい循環器内科、新生児・未熟児科の減少の影響が大きい。
- ✓ 心臓血管外科、整形外科は、医師数は増加していないが患者数・診療単価共に増加傾向にある。

入院延患者数と診療単価の増減比較(H25-H27)



出典：千葉県こども病院年報データ

4. こども病院の経営分析の主要ポイント

6) 診療科別外来延患者数の推移

✓ 下記の診療科の患者数が減少している。

▲ 5%以上10%未満の診療科（H25-H27比較）：泌尿器科、新生児・未熟児科

外来延患者数推移

診療科	外来延患者数				比較 対平均(H27)	増減		
	H25	H26	H27	平均		H25-H26	H26-H27	H25-H27
感染症科	1,955	2,079	2,096	2,043	2.6%	6.3%	0.8%	7.2%
内分泌科	5,691	5,798	5,608	5,699	▲ 1.6%	1.9%	▲ 3.3%	▲ 1.5%
代謝科	1,688	1,663	1,882	1,744	7.9%	▲ 1.5%	13.2%	11.5%
血液腫瘍科	2,887	3,034	3,016	2,979	1.2%	5.1%	▲ 0.6%	4.5%
遺伝科	365	308	357	343	4.0%	▲ 15.6%	15.9%	▲ 2.2%
新生児・未熟児科	598	527	550	558	▲ 1.5%	▲ 11.9%	4.4%	▲ 8.0%
腎臓科	3,314	3,536	3,720	3,523	5.6%	6.7%	5.2%	12.3%
アレルギー・膠原病科	7,522	8,017	7,614	7,718	▲ 1.3%	6.6%	▲ 5.0%	1.2%
循環器内科	6,144	6,419	6,485	6,349	2.1%	4.5%	1.0%	5.6%
神経内科	5,213	5,652	5,923	5,596	5.8%	8.4%	4.8%	13.6%
精神科	3,856	3,912	3,875	3,881	▲ 0.2%	1.5%	▲ 0.9%	0.5%
救急診療科	3,122	3,489	3,631	3,414	6.4%	11.8%	4.1%	16.3%
小児外科	3,902	4,253	4,110	4,088	0.5%	9.0%	▲ 3.4%	5.3%
整形外科	6,640	6,961	7,547	7,049	7.1%	4.8%	8.4%	13.7%
脳神経外科	2,740	2,748	2,923	2,804	4.3%	0.3%	6.4%	6.7%
眼科	8,785	8,836	8,797	8,806	▲ 0.1%	0.6%	▲ 0.4%	0.1%
耳鼻咽喉科	5,205	5,376	5,710	5,430	5.2%	3.3%	6.2%	9.7%
形成外科	4,009	3,990	4,565	4,188	9.0%	▲ 0.5%	14.4%	13.9%
泌尿器科	4,638	4,450	4,203	4,430	▲ 5.1%	▲ 4.1%	▲ 5.6%	▲ 9.4%
心臓血管外科	419	477	521	472	10.3%	13.8%	9.2%	24.3%
産科	140	156	153	150	2.2%	11.4%	▲ 1.9%	9.3%
歯科	1,767	1,944	1,899	1,870	1.6%	10.0%	▲ 2.3%	7.5%
リハビリ科	0	0	274	91	200.0%	-	-	-
小児外科	80,600	83,625	85,459	83,228	2.7%	3.8%	2.2%	6.0%

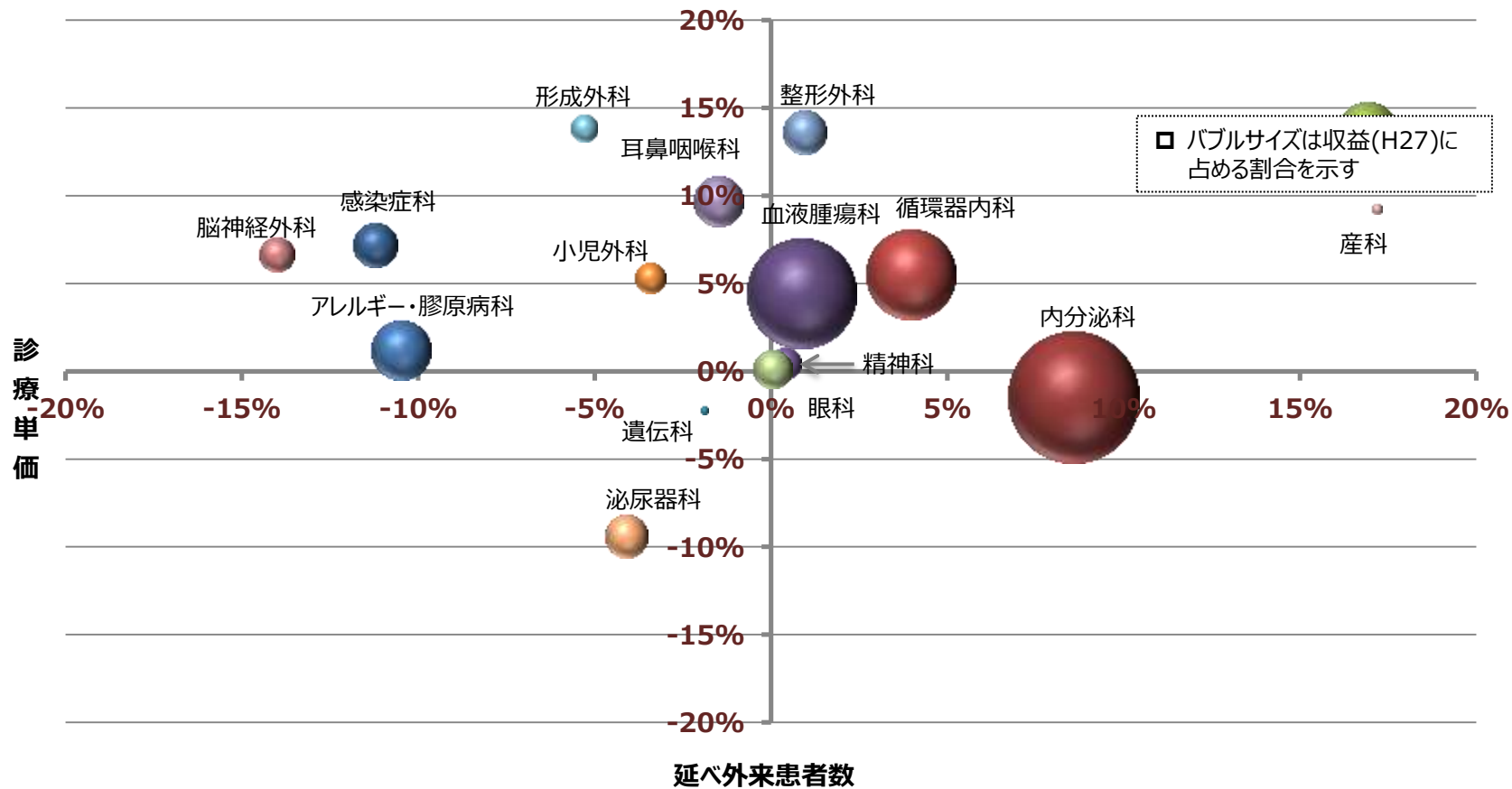
出典：千葉県こども病院年報データ

4. こども病院の経営分析の主要ポイント

7) 外来延患者数と診療単価の増減

✓ 全体的に患者数は増加しているが、多くの診療科で診療単価が減少している。

外来延患者数と診療単価の増減比較(H25-H27)



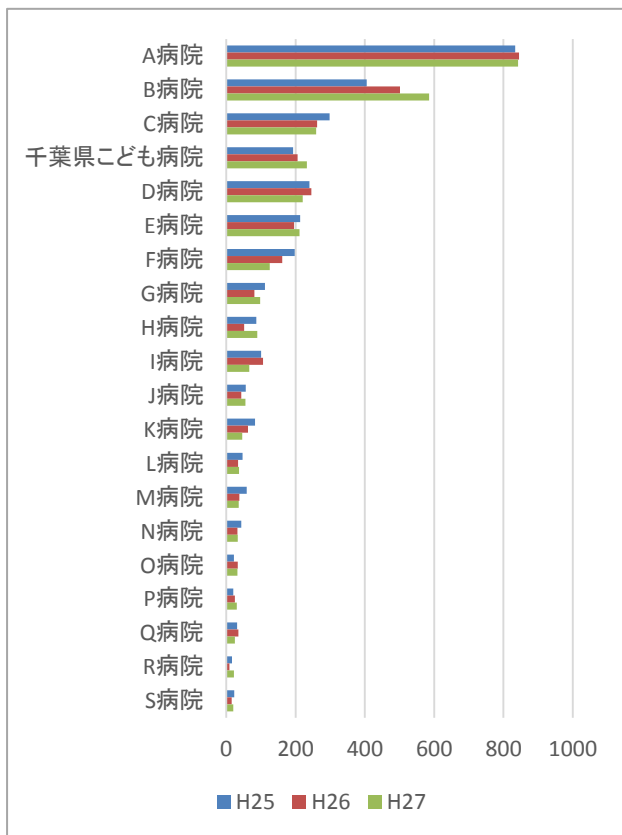
4. こども病院の経営分析の主要ポイント

8) 千葉市救急隊経由 医療機関別小児救急受け入れ数

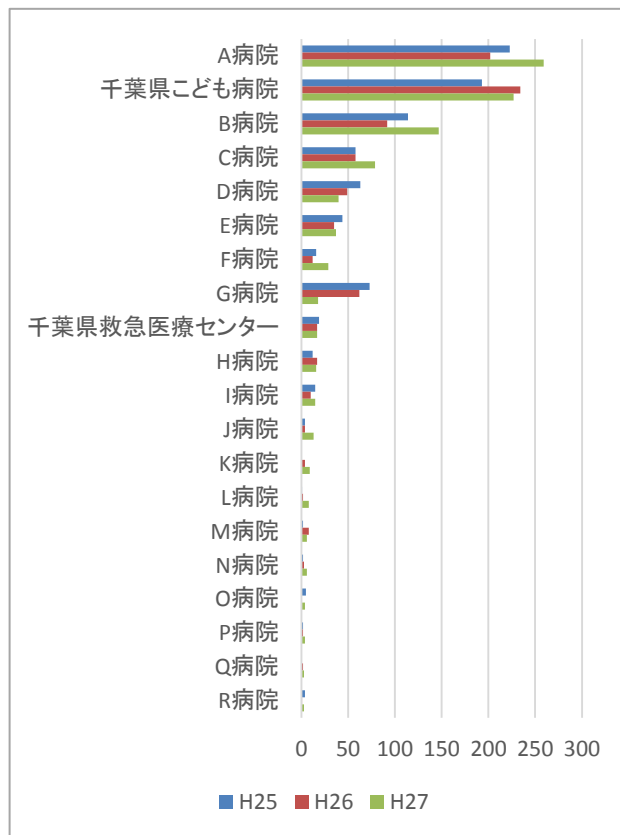
- ✓ 千葉市の小児救急患者数は、平成25-27年度で、中等症のみ増加傾向にあり、軽症・重症は減少傾向にある。
- ✓ こども病院は、軽症・中等症・重症いずれも受入数が上位4位以内に位置しており、軽症・中等症の受入数が増加傾向にある。

千葉市の医療機関別・重症度別小児救急患者数の状況(単位:件)

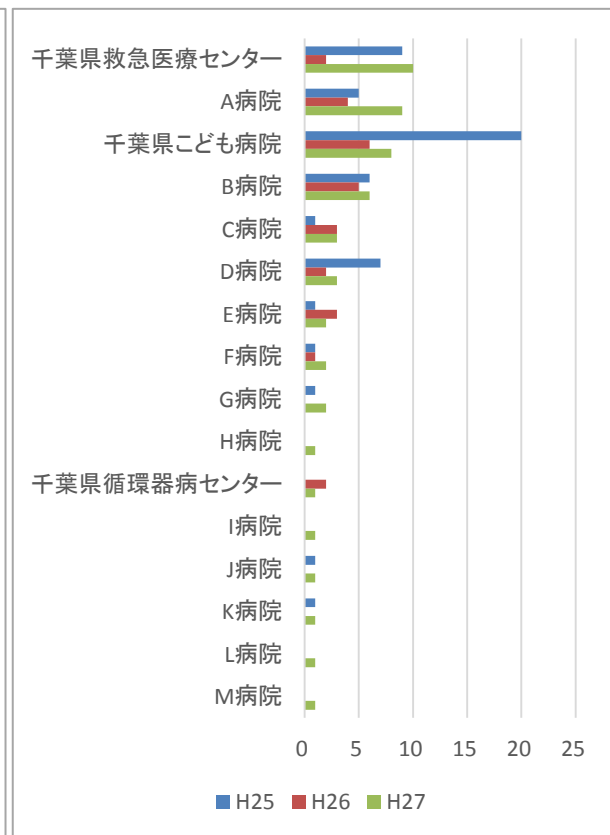
<軽症・医療機関別・上位20>



<中等症・医療機関別・上位20>



<重症・医療機関別・上位16>



合計	H25	H26	H27	増加率
	3,643	3,434	3,499	-4.0%

合計	H25	H26	H27	増加率
	913	878	988	8.2%

合計	H25	H26	H27	増加率
	64	35	52	-18.8%

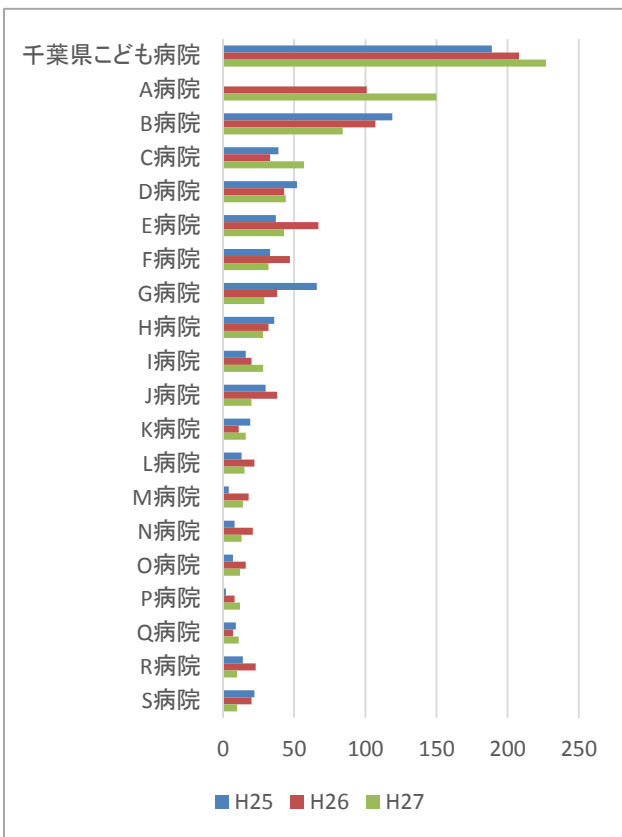
4. こども病院の経営分析の主要ポイント

9) 山武長生夷隅地域救急隊経由 医療機関別小児救急受け入れ数

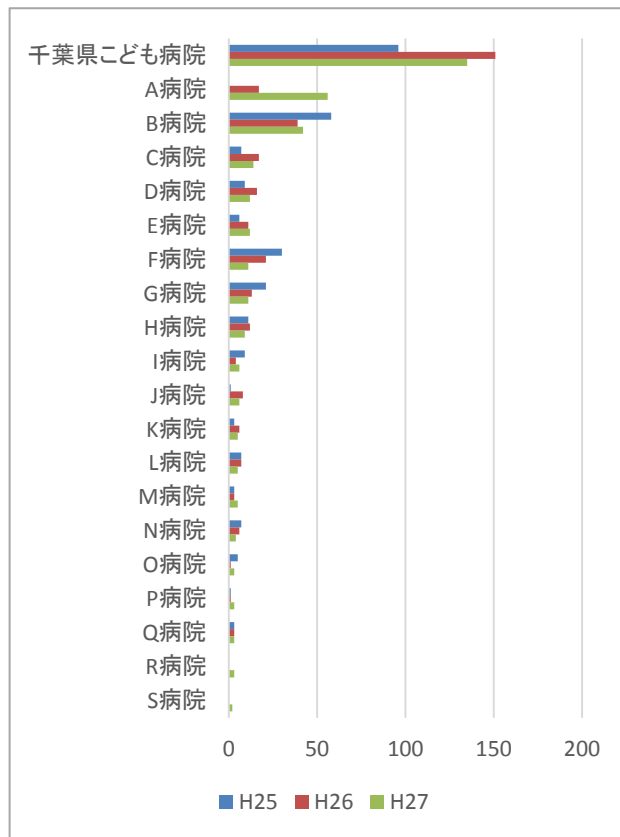
- ✓ こども病院が補完的に二次救急を担う山武長生夷隅地域の小児救急患者数は、平成25-27年度にかけて、全体的に増加傾向にある。
- ✓ こども病院は、軽症・中等症・重症いずれも受入数が最上位に位置しており、受入数は増加傾向にある。

山武長生夷隅地域の医療機関別・重症度別小児救急患者数の状況(単位:件)

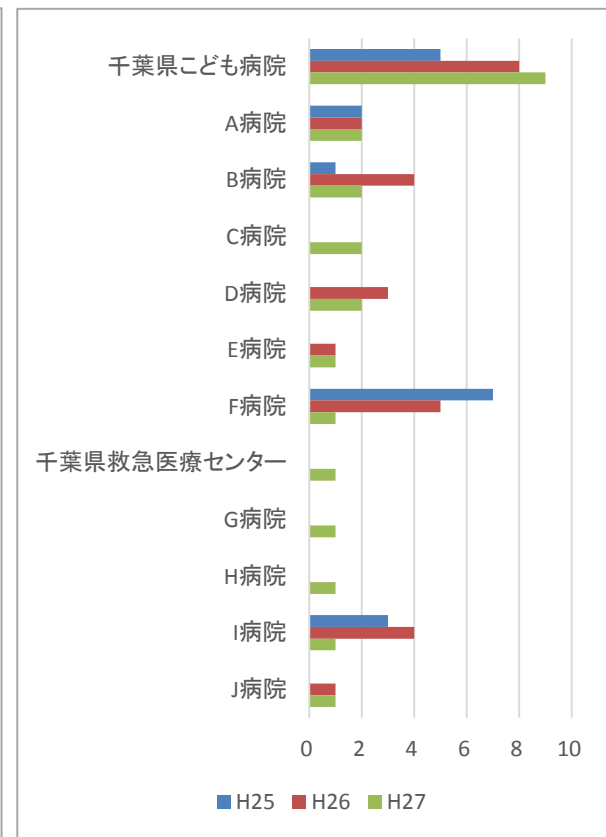
<軽症・医療機関別・上位20>



<中等症・医療機関別・上位20>



<重症・医療機関別・上位12>



合計	H25	H26	H27	増加率
	901	1,065	1,006	11.7%

合計	H25	H26	H27	増加率
	323	375	382	18.3%

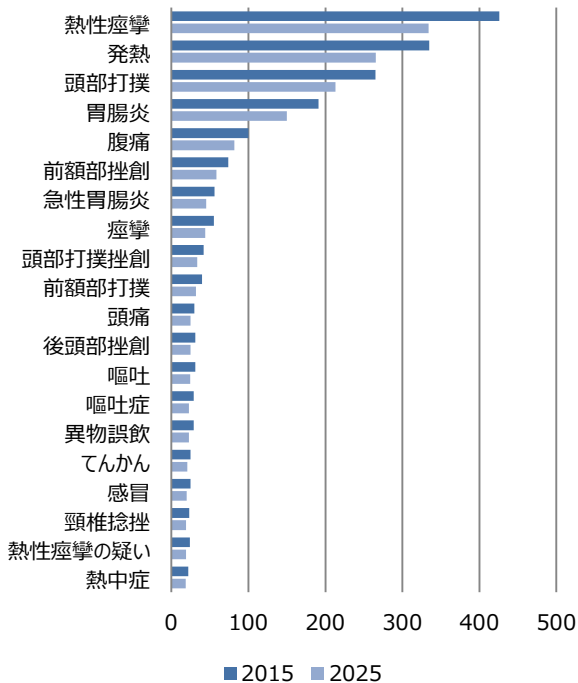
合計	H25	H26	H27	増加率
	25	35	24	-4.0%

4. こども病院の経営分析の主要ポイント

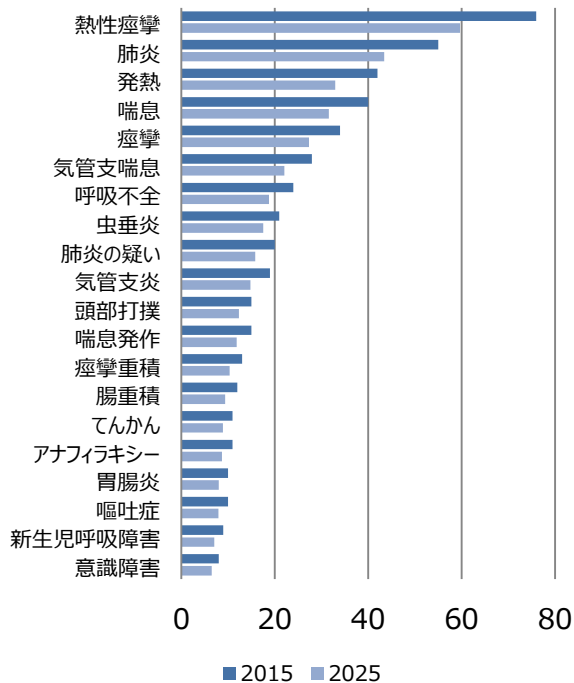
10) 千葉市救急隊経由 将来推計小児救急患者数

- ✓ 千葉市の小児救急搬送患者は、将来的には軽症・中等症・重症いずれも減少の見込みである。
- ✓ 軽症患者は熱性痙攣、発熱、頭部打撲等、中等症患者は熱性痙攣、肺炎、発熱等、重症患者は心肺停止、縊死、新生児仮死等が多い見込みである。

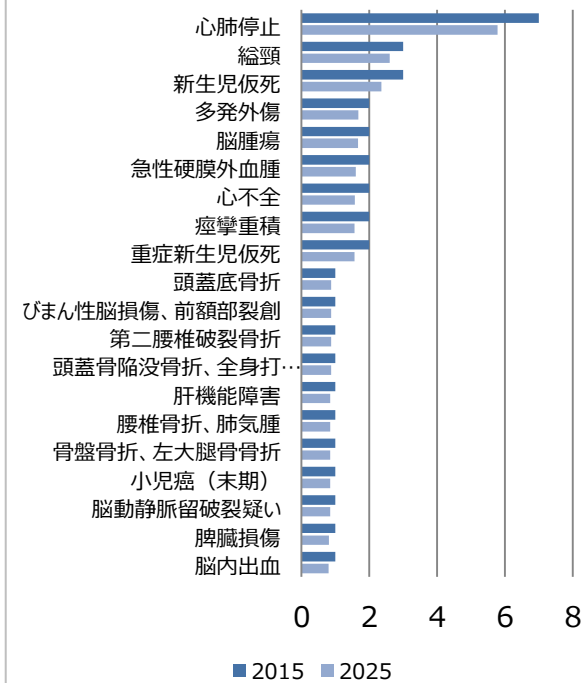
2015～2025年 千葉市 軽症
傷病別小児推計救急患者 上位20



2015～2025年 千葉市 中等症
傷病別小児推計救急患者 上位20



2015～2025年 千葉市 重症
傷病別推計小児救急患者 上位20



合計	2015	2025	増加率
	3,499	2,807	-19.8%

合計	2015	2025	増加率
	988	789	-20.1%

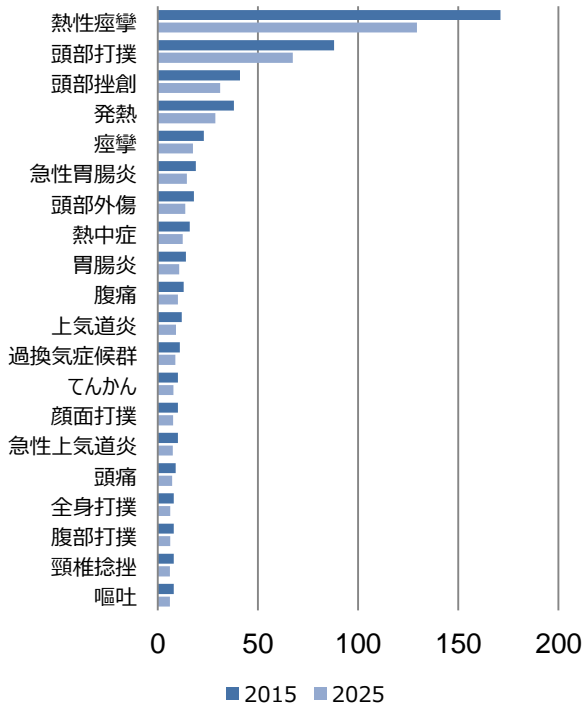
合計	2015	2025	増加率
	52	42	-18.7%

4. こども病院の経営分析の主要ポイント

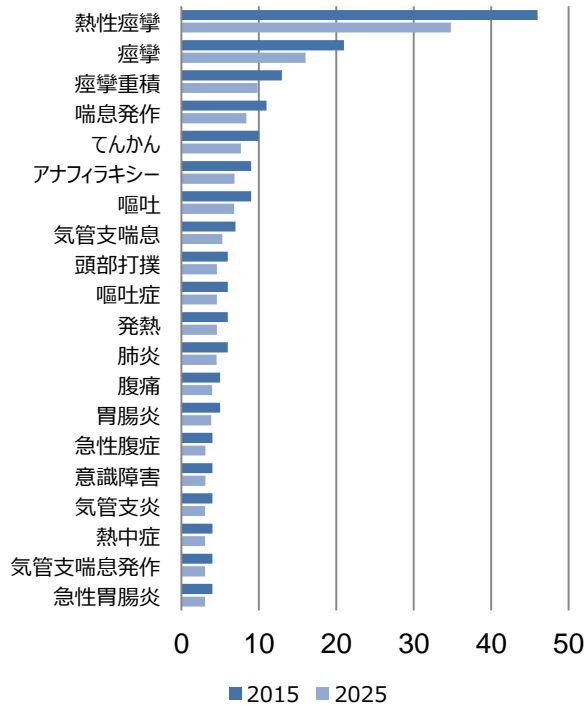
11) 山武長生夷隅地域救急隊経由 将来推計小児救急患者数

- ✓ 山武長生夷隅地域の小児救急搬送患者は、将来的には軽症・中等症・重症いずれも減少の見込みである。
- ✓ 軽症患者は熱性痙攣、頭部打撲、頭部挫創等、中等症患者は熱性痙攣、痙攣、痙攣重積等、重症患者は痙攣重積、心肺停止、縊死等が多い見込みである。

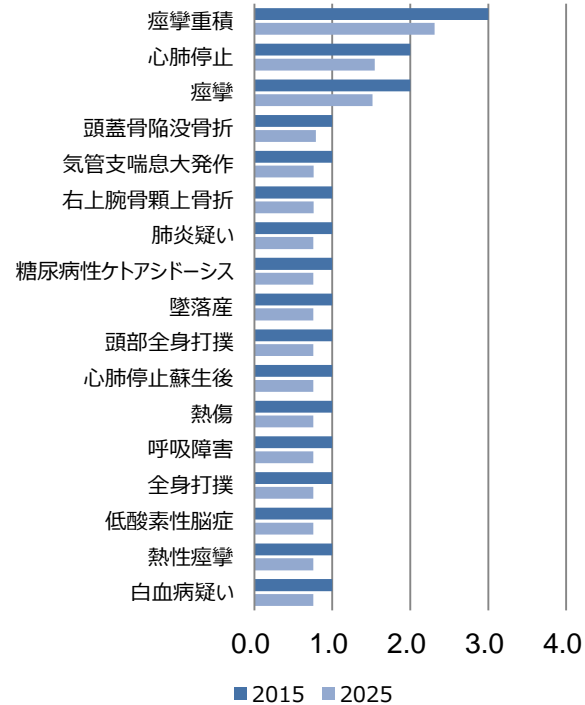
2015～2025年 山武長生夷隅 軽症
傷病別推計小児救急患者 上位20



2015～2025年 山武長生夷隅 中等症
傷病別推計小児救急患者 上位20



2015～2025年 山武長生夷隅 重症
傷病別推計小児救急患者 上位18



合計	2015	2025	増加率
	975	745	-23.6%

合計	2015	2025	増加率
	369	282	-23.5%

合計	2015	2025	増加率
	21	16	-23.8%

全県（複数圏域）対応型小児医療拠点病院としての機能

- ✓ 全県（複数圏域）対応型小児医療拠点病院として、一般病院では対応困難な高度専門小児医療及び付随する相談・指導を担っている。特に、重症化しやすい先天性心疾患については、県内の約8割のシェアを有している。また、消化器、神経、腎尿路、外表などの複雑先天奇形疾患、造血幹細胞移植、小児慢性透析等も全県から患者を受け入れている。
- ✓ 千葉大学をはじめとする大学の医学部・看護学部・薬学部・看護学校から、医療従事者を目指す学生教育の一部を委嘱されており、将来の千葉県の小児医療を担う人材育成に重要な役割を果たしている。

小児救急医療への対応

- ✓ こども病院が所在する千葉市において、こども病院の受入数は軽症・中等症・重症いずれも上位4位以内に位置している。また小児二次救急の補完的役割を担っている山武長生夷隅地域では、全ての傷病程度において受入数が最上位であり、全県対応型小児医療拠点病院としての機能を果たしている。

地域医療支援病院としての役割

- ✓ 地域医療支援病院として地域の中で医療の機能や役割を分担し、地域の小児医療水準の向上と効果的な医療の提供に努めている。

医業収支比率の向上

- ✓ こども病院の中期経営計画実績によると、平成27年度の医業収支比率は74.2%であり、80%を下回っている。
- ✓ ベンチマーク病院と比較して100床当たりの入院収益が低く、一方で100床当たりの医業費用が高い。
- ✓ 1病棟当たり病床数が25床程度の規模となっているため、看護配置上、効率的な運営に課題がある。

入院収益の向上

- ✓ 紹介経由の患者が減少している。今後も引き続き少子化が進むことにより、県内の小児患者の減少が予測される。その様な状況の中で、いかに新入院患者獲得し病床利用率向上を図るかが課題と考えられる。
- ✓ NICU・ICUの後方病床として重症度が高い患者を受け入れるHCUの様な病床が不足しており、NICU・ICU算定日数を超えて入院しているケースがある。
- ✓ 感染症患者も多い中で、現状では個室率が低いことでベッドコントロールが困難な状況にあり、このような施設上の課題が病床稼働率の低下に影響していると考えられる。中長期的には、再整備を見据えた検討が必要である。